

## 温州ミカンにおける炭酸カルシウム微粉末剤を用いた チャノキイロアザミウマ防除

チャノキイロアザミウマは、カンキツの果皮を加害して傷果を発生させる重要害虫です。現在は化学殺虫剤による防除が中心で、静岡県内のカンキツ園では本種を対象に年間3～5回の殺虫剤が散布されています。このため、本種における薬剤抵抗性の発達や、他害虫（ミカンハダニなど）の土着天敵に対する活動阻害などが懸念されています。そこで、化学殺虫剤ではない炭酸カルシウム微粉末剤を用いたチャノキイロアザミウマの防除技術を開発しました。

### ☆ 技術の概要

1. 本剤を25倍に希釈してミカン樹に2回散布（6月上旬と7月中旬）すると（写真1）、慣行の化学殺虫剤3回の散布とほぼ同等の被害抑制効果があることが示されました（図1）。本剤は、平成22年に農薬登録されています。
2. 本剤を散布すると、ミカンハダニの土着天敵類が温存される結果、ミカンハダニの密度が低く推移することがわかりました。
3. 本剤は、青島温州では、7月下旬までの散布であれば、果実品質（糖度、酸含量、外観等）に影響を与えないことが明らかとなりました。



写真1 炭酸カルシウム剤を散布したミカン樹

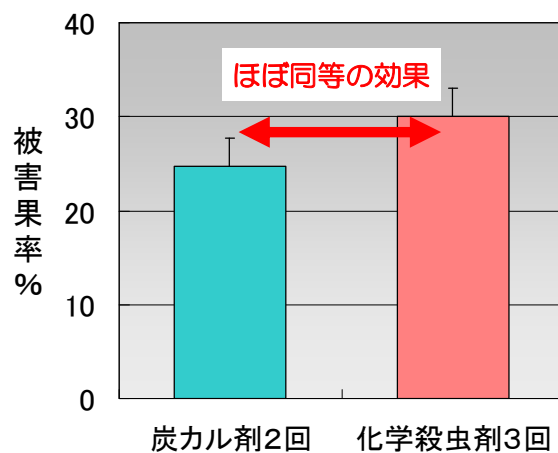


図1 炭酸カルシウム剤のチャノキイロアザミウマに対する被害抑制効果(被害を受けた果実割合)

### ☆ 活用面での留意点

1. 詳細については、（静岡県農林技術研究所果樹研究センター生産環境科 TEL:054-334-4854、e-mail:kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp）にお問い合わせください。

（果樹研究所 企画管理部 研究調整役 岩波 徹）